

# 令和5年度

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

事業計画書

収支予算書

公益財団法人 博報堂教育財団

## 令和5年度 事業計画書

「児童及び青少年に対する国語教育、日本語教育、ことば及び文化についての教育並びに特別支援教育等に関する助成、その活動に関する調査研究、普及啓発並びに人材育成等を通じて、わが国の文化と伝統を尊重する態度を育て、国際社会に生きる自覚を促し、もって児童及び青少年の健全な人間形成に寄与することを目的とする事業」（公1）に係る事業計画の具体的内容を、以下のとおりとする。

### 1 第54回「博報賞」

児童・生徒の「豊かな人間性育成」に貢献・努力されている学校・団体・教育実践者の顕彰を通して、児童教育の現場を活性化させる。

#### ① 日程

- |                  |      |            |               |
|------------------|------|------------|---------------|
| (1) 推薦受付期間       | 令和5年 | 4月～6月末     |               |
| (2) 審査会の開催       | 令和5年 | 7月 下旬～8月下旬 |               |
| (3) 受賞者の発表       | 令和5年 | 10月 上旬     |               |
| (4) 贈呈式・事例共有会の実施 | 令和5年 | 11月        | (会場：日本工業倶楽部他) |

#### ② 賞の種類と贈呈予定数

推薦の中から、厳正審査の上、受賞者を選考し、賞状および副賞を贈呈する。

博報賞受賞者の中から、特励すべき取り組みがある場合には、文部科学省の承認手続を経て文部科学大臣賞を贈呈する。

また、博報賞応募者の中から、実践期間が長く後進指導等に功績がある場合には「功労賞」を、教育の発想や方法論において特出した独自性、将来性、汎用性がある場合には「奨励賞」を贈呈する。

賞の種類	賞の概要及び贈呈予定数	賞の内容
博報賞	15件前後	正賞：賞状 副賞：100万円
博報賞 文部科学大臣賞	博報賞受賞者の中から、特励すべき取り組みがある場合に贈呈。	賞状 (文部科学大臣賞)
功労賞	博報賞応募者の中から、実践期間が特に長く後進指導等に功績のある場合に贈呈。10件程度	正賞：賞状 副賞：50万円
奨励賞	博報賞応募者の中から、実践期間が短くとも教育の発想や方法論が独自性、将来性及び汎用性で特出する場合に贈呈。10件程度	正賞：賞状 副賞：30万円

### 2 「児童教育実践についての研究助成」

新しい視点を持つ教育実践者・研究者の研究を助成し、研究成果を教育実践に反映させることを通して、児童教育の基盤を充実させる。

### ① 日程

#### (1) 第17回助成（1ヵ年助成者）

- |           |      |       |
|-----------|------|-------|
| ・ 報告書提出   | 令和5年 | 5月10日 |
| ・ 優秀賞審査   | 令和5年 | 6月25日 |
| ・ 研究成果報告会 | 令和5年 | 8月19日 |

#### (2) 第17回助成（2ヵ年助成者）

- |                 |      |         |    |
|-----------------|------|---------|----|
| ・ 研究期間（2年目の研究）  | 令和5年 | 4月～令和6年 | 3月 |
| ・ 研究成果報告会（中間報告） | 令和5年 | 8月19日   |    |

#### (3) 第18回助成

- |                           |      |         |    |
|---------------------------|------|---------|----|
| ・ 研究期間（1ヵ年助成者・2ヵ年助成者の1年目） | 令和5年 | 4月～令和6年 | 3月 |
|---------------------------|------|---------|----|

#### (4) 第19回助成

- |           |      |             |      |
|-----------|------|-------------|------|
| ・ 応募受付    | 令和5年 | 7月1日～10月31日 |      |
| ・ 審査会     | 令和5年 | 11月中旬～令和6年  | 1月下旬 |
| ・ 助成対象の発表 | 令和6年 | 2月下旬        |      |
| ・ 説明会     | 令和6年 | 3月上旬        |      |

### ② 研究助成金金額

- ・ 1ヵ年助成については1件につき200万円（1年間）を上限とする。
- ・ 2ヵ年助成については1件につき300万円（2年間）を上限とする。
- ・ 優秀賞（正賞：賞状/副賞：30万円）

## 3 「奨学事業」（教職育成奨学金）

児童教育、国語教育を支える未来の優秀な教育指導者を育成し、その養成期間での経験や修学の質を高めていくことを目的に、教員を目指す大学生及び大学院生（以下奨学生という）に対し奨学金を給付する。併せて、研修・交流会等の育成活動を行い、教職課程や在籍大学にとらわれない学びの機会の提供を図るとともに、奨学生及び卒業生の交流を促進し、交流の輪が学び合い、支え合いのネットワークとなり、教育の質の向上や教育現場の活性化に寄与することを目指す。

#### <奨学金給付>

令和5年度は、59校の推薦依頼大学から新たに100名程度の奨学生を採用する予定である。

### ① 日程

- |                     |      |       |
|---------------------|------|-------|
| (1) 令和5年度奨学金応募学生締切  | 令和5年 | 6月    |
| (2) 令和5年度奨学金応募学生選考  | 令和5年 | 7月    |
| (3) 令和5年度奨学金給付対象者決定 | 令和5年 | 7月～8月 |
| (4) 令和5年度奨学金給付開始    | 令和5年 | 10月   |

### ② 推薦依頼大学数及び奨学金給付対象者数（予定）

- |               |                             |
|---------------|-----------------------------|
| (1) 推薦依頼大学数   | 59校                         |
| (2) 奨学金給付対象者数 | 253名（継続奨学生：153名、新入奨学生：100名） |

#### <研修・交流会等>

### ① 奨学生向け施策

令和5年度は、各種研修、交流会、Webマガジン配信などの育成・交流施策を予定している。

#### <日程>

- |                        |      |         |    |
|------------------------|------|---------|----|
| (1) 奨学生Webマガジン配信、小冊子発刊 | 令和5年 | 4月～令和6年 | 3月 |
| (2) 新入奨学生研修実施          | 令和5年 | 8月～9月   |    |
| (3) 奨学生研修実施            | 令和5年 | 8月～令和6年 | 3月 |
| (4) 奨学生・卒業生交流会実施       | 令和5年 | 8月～令和6年 | 3月 |

## ② 奨学生OB・OG向け施策

令和4年度より引き続き令和5年度も、今後増加していく奨学生OB・OG間の交流促進や情報交換などを強化していくための施策トライアルを行い、ニーズの把握や有効性の検証を行う。

(費用は(1)については奨学生向けコンテンツとしても活用することから公益目的事業会計にて処理、(2)(3)については施策トライアルとして法人会計にて処理する)

<日程>

(1) OB・OG近況共有Webコンテンツ配信	令和5年	4月～令和6年	3月
(2) OB・OG研修・勉強会・交流会実施	令和5年	4月～令和6年	3月
(3) OB・OG交流連絡用プラットフォーム企画開発検討	令和5年	4月～令和6年	3月

## 4 「日本語交流プログラム」

日本語による異文化体験や国際交流を通じ、日本の生徒と海外の生徒がお互いの理解を深め、「文化の異なる人と、社会的課題に向かってともに行動できる人」への成長のきっかけとなる場を提供することを目指す。

### ① 日本語による交流プログラム

#### (1) オンライン交流活動

海外参加校と日本参加校の生徒たちが、オンラインミーティングツールを用いて、互いの国の文化や学校紹介などを発表しつつ、互いの興味関心についての理解を深める。「日本での集合型交流イベント」開催の3ヶ月程前から実施する。

#### (2) オンライン講座

海外参加校向け講座として、日本参加校との交流のための日本語を学ぶ「日本語講座」等や、日本校向け講座として、話の組み立て方や、相手にわかりやすく伝える話し方を学ぶ「発信力講座」等を実施する。「日本での集合型交流イベント」開催の半年程前から実施する。

#### (3) 日本での集合型交流イベント

参加校がオンライン交流、オンライン講座を通じて、交流のための事前準備を進めた後に、日本に集まり、2週間程の期間、対面での交流を行う。日本校を含め世界10数か国の生徒が、日本語を共通語に、学校訪問・授業部活体験、ホームステイ、文化体験等を通じて、互いの理解を深め合う。単に異文化体験や国際交流の場を提供するだけではなく、交流プログラム回毎にテーマを設定し、夫々の国の生活や文化の多様性を理解し、認め合うことの重要性を、実感できる機会を提供する。感染症の影響等で延期される場合でも、選出校の翌年の参加を保証する。

<日程>

#### (ア) 「第13回」

オンライン交流活動・講座	令和4年	12月～令和5年	4月
日本での集合型交流イベント	令和5年	5月中旬～下旬	

#### (イ) 「第14回」

海外参加校審査会の開催	令和5年	4月下旬	
日本参加校募集期間	令和5年	5月中旬～7月下旬	
海外参加校決定	令和5年	7月下旬	
日本参加校審査会の開催	令和5年	8月下旬	
日本参加校決定	令和5年	10月上旬	
オンライン交流活動・講座	令和5年	12月～令和6年	4月
日本での集合型交流イベント	令和6年	5月中旬～下旬	

#### (ウ) 「第15回」

海外参加校募集期間	令和6年	1月上旬～2月中旬	
-----------	------	-----------	--

## ② 教師による事前研修

### (1) オンライン研修

招聘が決定した海外校の日本語教師が、オンラインミーティングツールを用いて、互いの学校紹介や指導方法に関する対話を実施する。また、①における指導法等についての研修を受ける。「日本での集合型研修」の開催の1～2ヶ月程前から実施し、また、「日本での集合型研修」の後、①の「日本における集合型交流イベント」の前まで実施する。

### (2) 日本での集合型研修

①を円滑に進めるために、生徒の日本語学習への意欲を高め、来日・交流に備える上で有効な生徒の指導法、①のカリキュラムを事前体験する研修等を2週間にわたって対面で実施する。

<日程>

#### (ア)「第14回」

オンライン研修	令和5年	10月～令和6年	3月
事前研修	令和5年	11月中旬～下旬	

## ③ 関連支援活動

①の公募を検討している日本校等に対し、これまでの交流プログラムの事例、教科への活用方法等について、情報提供、及び相談・助言を行う。また、本事業に関心の高い学校で海外の交流先を探している日本校等に対し、問い合わせ・相談等があれば、本事業に参加した海外校の情報の提供、本事業を通じて得られた交流活動のケーススタディーをはじめとする情報提供等を行う。

①に参加した日本校・海外校等に対し、過去参加した日本校・海外校等についての情報や過去の交流事例についての情報を提供し、各学校が自主的に実施するオンライン交流会について相談・助言を行う。また、要望があれば、①の事前準備において行ったオンライン講座についても実施する。

## 5 「調査研究事業」

「博報賞」や「児童教育実践についての研究助成」等を通じて蓄積された知識基盤を活用し、財団独自の調査や実験的な取り組みを行いその成果を公表する取り組みである。このことを通じて、社会各分野での実践活動や研究及び制度設計の活用に供し、これらの担い手の間の連携を引き出し、より効果を高めることを目的とする。

### ① 調査研究の実施

#### (1) 定点調査

##### ・年次調査

子どもの体験や意識の変化を年単位で把握する大規模調査（10月～11月実査）

##### ・週次調査

子どもの意識を週単位で把握するクイック調査（年間隔週実査）

#### (2) テーマ型調査

##### ・子どものありのままを捉える調査

子どものありのままの姿を、写真談話構成法をはじめとする新手法によって捉える調査（年3～4回程度実査）

#### (3) 教育課題に関する研究交流会議

・現場教員から教育研究者までの幅広い教育実践者が集い、教育課題について討議する研究交流会議（年3回）

### ② 知見・成果の発表

成果をウェブサイト、冊子、報告会等の形式で年間を通じて公表

## 6 「大規模災害時支援」

平成29年度に変更認定を受けた本事業は、国内で大規模災害の発生時に、被災した児童・生徒及び児童教育現場（学校関係者及び学校関連施設等）に対して、迅速かつ、被災地のニーズに即した支援を行えるように、予め体制を整備し、これに備えることを目的としている。具体的には、国内で発生した災害で、死者100人又は負傷者500人を超えるもの、及びこれに準じる災害と見なされる事態が発生した場合に、被災地等の教育関係者への聞き取りを行い、これに基づき、被災地及び集団避難先の行政機関（都道府県教育委員会等）又は行政機関が指定する公的な基金等に対し、支援金を交付するもの。

本年度は、昨年度に引き続き、本事業による支援活動の運営方法及び体制に基づき、国内の災害発生毎に、必要な調査を継続し、基準に至る災害が発生した場合には、速やかに支援金の交付を行う。

予算は特に設けず、緊急を要する案件については、理事長が決裁し、理事会に報告するものとする。

## 7 「社会啓発事業」

### ① テーマ設定による総合的なキャンペーン（テーマ：「子どもの読書機会の拡大」）

当財団の設立50周年を記念する事業として令和2年に実施した「お気に入りの一冊をあなたへ」作文コンクールの成果分析を踏まえ、「お気に入りの一冊をあなたへ」読書推薦文コンクールとして実施する。このテーマは、OECD国際学力調査で指摘された日本の子どもの文章読解力低下への対策として期待されること、国から民間を含む多様な主体の連携が提起されていること、当財団の研究助成や博報賞からも同様の課題が見られること等を考慮し設定したテーマ「子どもの読書機会の拡大」に基づくものである。

本キャンペーンでは、ア)表彰・コンクールとして、子どもを対象として「自分の好きな本を人に薦める文章」を公募し、イ)このコンクールの告知・募集及びコンクールの優秀作品を使った広報活動、並びに、ウ)子どもを対象とする「伝え方や文章の書き方を学ぶ講座」等の関連の育成活動等を組み合わせ、子どもの読書機会の直接的、間接的な拡大をはかる。

本年度は、ア)コンクール（第3回「お気に入りの一冊をあなたへ」読書推薦文コンクール）の公募・選考、これを補完する イ)広報活動、及び ウ)子どもを対象とする「伝え方や文章の書き方を学ぶ講座」等の関連育成活動を実施する。

<日程>

(1) 募集告知等のプロモート活動	令和5年	4月～9月
(2) 募集期間	令和5年	4月～9月
(3) 育成活動のPR	令和5年	4月～9月
(4) 講座等の育成活動	令和5年	5月～9月
(5) 選考期間	令和5年	10月～令和6年 2月
(6) 活動成果広報	令和5年	10月～令和6年 3月
(7) 発表	令和6年	2月又は3月
(8) 表彰式	令和6年	3月

### ② 個別の社会啓発活動

既存の公益目的事業の成果より導出された各種の知見、深掘りすべき課題及び社会への提言等が明らかになった時点で、単独又は単発的に、社会啓発広報、シンポジウム等又はその両方を組み合わせて行うもので、今年度は各事業の成果から、広報を伴って社会に働きかけるべき大きなテーマがあるかを吟味し、「子どもの読書機会の拡大」に続く次なるテーマの検討を継続する。

## 8 「日本語教育プログラム」

令和2年10月に変更認定を受け、令和4年6月に一部変更した本事業は、海外の子どもたちの日本語教育を支援していくことを目的とし、重点地域（ASEAN地区：タイ・ベトナム等）の中からまずはタイをターゲットとし、ア）現地日本語教員の日本における研修、イ）日本語教育及び教員養成にあたる大学・大学院への寄附、ウ）日本語教育及び日本文化・エンターテインメントの普及並びに進展に貢献・功労のあった個人又は団体への顕彰等に取り組むもので、事業開始3年目にあたる本年度も、令和4年度に実施した内容を継続して行う。この際、関係する現地の教育省、日本語教師会及び国際交流基金等と連携・補完し合うことで実効性を高める。

対象地域は、引き続きASEAN地区とする。近年日本語学習者の伸長が著しくかつ8割を中等教育課程で占め、更なる日本語教育の進展に向けた課題が明らかで、当該国の教育省、日本語教師会及び日本の国際交流基金間の協力関係もできつつあることから、当財団が助成に加わることで日本語教育の進展に効果が期待できる地域であるため。更に、限られた資源の効率を考え、ASEANの中で、学習者が増えている国の中でかつ学習者数が最大のタイから着手し、その後進め方の改善を図りながら、次に学習者数の大きいベトナムを目指す。当初、これに続くミャンマーを想定していたが、社会情勢を踏まえ、見直すこととする。

本事業は、設立50周年を迎える機会に、公益目的事業の再編成をはかる一環として、海外事業の本来目的を「海外の子どもたちへの日本語教育」と整理したことを受け、これを具現化する事業として取組んでいるもの。

### ① タイにおける子どもたちへの日本語教育支援プログラム

#### (1) 現地日本語教員の日本及び本国における研修

タイの初等・中等教育課程の子どもたちに日本語を教える教員（非母語話者）から公募し日本における研修を実施。（各年度 30名程度、最長3週間の訪日研修の予定）

《日程》

##### 1. 第1回

訪日研修実施（3週間程度）	令和5年	4月
※感染症影響で1年延期していた		
事後のフォロー支援	令和5年	6月～

##### 2. 第2回

訪日研修実施（3週間程度）	令和5年	4月
事後のフォロー支援	令和5年	6月～

##### 3. 第3回

応募受付	令和5年	3月～5月
審査会準備	令和5年	6月～8月
[書類審査による二次選考含む]		
審査会	令和5年	10月
参加者発表	令和5年	11月
[Web等にて発表]		
事前研修	令和5年	11月～令和6年 2月
合同表彰式イベント	令和6年	2月
[タイにて実施]		

- (2) 日本語教育及び教員養成にあたる大学・大学院への寄附  
タイで日本語教育及び教員養成課程を有し、先進的な活動を行っている大学・大学院を調査し、使途自由な研究支援費を寄附。寄附金活用事例を広くタイで広報する。

(初年度：新規10校、2年次：新規4校・継続10校、3年次：新規5校程度・継続14校、4年次以降：新規若干・継続20校程度、1機関当たり寄附金50万円)

《日程》

- |                            |      |       |          |
|----------------------------|------|-------|----------|
| 1. 第1回                     |      |       |          |
| 寄附金の使用報告(10校)              | 令和5年 | 8月    |          |
| 2. 第2回                     |      |       |          |
| 寄附金の給付(4校)                 | 令和5年 | 5月    | ※使用期限は1年 |
| 審査会                        | 令和4年 | 10月   |          |
| 3. 第3回                     |      |       |          |
| 寄付先選定の為の調査                 | 令和5年 | 3月~8月 |          |
| 審査会                        | 令和5年 | 9月    |          |
| [新規寄付先選定・第1回寄附受給校10校の継続審査] |      |       |          |
| 寄付先発表                      | 令和5年 | 11月   |          |
| [Web等にて発表]                 |      |       |          |
| 合同表彰式イベント                  |      |       |          |
| 新規寄附受給校紹介・寄附金活用事例の発表       | 令和6年 | 2月    |          |
| [タイにて実施]                   |      |       |          |

- (3) 日本語教育及び日本文化・エンターテインメントの普及並びに進展に貢献・功労のあった個人又は団体への顕彰

タイの子どもたちに対する日本語教育及び日本文化・エンターテインメントの普及並びに進展に貢献・功労のあった個人又は団体を顕彰し、その事例を広報するもの。(日本語教育部門賞、日本文化・エンターテインメント部門賞、及び大賞を授与)

(各年度 大賞1件[副賞50万円]、部門賞 合計6~8件程度[副賞各10万円]の予定)

《日程》

- |            |      |       |  |
|------------|------|-------|--|
| ・第3回       |      |       |  |
| 推薦受付       | 令和5年 | 6月~9月 |  |
| 審査会        | 令和5年 | 10月   |  |
| 授賞者発表      | 令和5年 | 11月   |  |
| [Web等にて発表] |      |       |  |
| 合同表彰式イベント  | 令和6年 | 2月    |  |
| [タイにて実施]   |      |       |  |

② 他のASEAN地域の導入に係る調査

タイにつぐ導入地域について、日本語普及に係る課題、現地の協力体制等について調査する。





## 令和5年度 年間事業計画 実施予定表

日 程	事 業 内 容
令和5年 4月上旬	第54回「博報賞」推薦受付開始（～6月末）
	第18回「児童教育実践についての研究助成」助成開始
4月下旬	第14回「日本語交流プログラム」海外参加校審査会の開催
4月	奨学事業 奨学生Webマガジン配信、小冊子発刊（～令和6年3月）
	奨学事業 OB・OG向けWebコンテンツ配信（～令和6年3月）
	奨学事業 OB・OG研修・勉強会・交流会実施（～令和6年3月）
	奨学事業 OB・OG交流連絡用プラットフォーム企画開発検討（～令和6年3月）
	調査研究事業 週次定点調査実査、隔週発表（～令和6年3月）
	社会啓発事業 募集開始（～9月）
	第1回・第2回「日本語教育プログラム」
	現地日本語教員の日本における研修 訪日研修実施（3週間程度）
5月中旬	第14回「日本語交流プログラム」日本参加校募集開始（～7月下旬）
	第13回「日本語交流プログラム」日本での集合型交流イベント（～5月下旬）
5月	社会啓発事業 講座等の育成活動開始（～9月）
	第2回「日本語教育プログラム」
	日本語教育及び教員育成にあたる大学・大学院への寄付 寄付金の給付
	第3回「日本語教育プログラム」
	現地日本語教員の日本における研修 応募受付締切
6月上旬	理事会・評議員会の開催（同日）
	決算評議員会の開催（書面決議方式にて）
6月下旬	第17回「児童教育実践についての研究助成」優秀賞審査
6月	奨学事業 令和5年度奨学金 応募学生締切
	第3回「日本語教育プログラム」
	日本語教育及び日本文化・エンターテイメントの普及並びに進展に貢献・功労のあった個人又は団体への顕彰 推薦受付開始（～9月）
7月上旬	第19回「児童教育実践についての研究助成」応募受付開始（～10月末）
7月下旬	第54回「博報賞」審査会の開催（～8月下旬）
	第14回「日本語交流プログラム」海外参加校決定
7月	奨学事業 令和5年度奨学金 応募学生選考
	調査研究事業 教育界異分野研究交流会①
7～8月	奨学事業 令和5年度奨学金 給付対象者決定
8月下旬	第17回「児童教育実践についての研究助成」研究成果報告会・優秀賞贈呈開催
	第14回「日本語交流プログラム」日本参加校審査会の開催
8月	第1回「日本語教育プログラム」
	日本語教育及び教員育成にあたる大学・大学院への寄付 寄付金使用報告
	第3回「日本語教育プログラム」
	日本語教育及び教員育成にあたる大学・大学院への寄付 寄付先選定調査終了
	奨学事業 奨学生研修実施（～令和6年3月）
	奨学事業 奨学生・卒業生交流会実施（～令和6年3月）
8～9月	奨学事業 令和5年度奨学金 新入奨学生研修実施
9月	調査研究事業 子どもありのままを捉える調査実査開始（～11月）
	第3回「日本語教育プログラム」
	日本語教育及び教員育成にあたる大学・大学院への寄付 審査会

10月上旬	第54回「博報賞」及び文部科学大臣賞の受賞者発表
10月中旬	第14回「日本語交流プログラム」日本参加校決定
10月	奨学事業 令和5年度奨学金 給付開始 第14回「日本語交流プログラム」教師によるオンライン研修開始（～令和6年3月） 調査研究事業 年次定点調査実査開始（～11月） 社会啓発事業 選考開始（～令和6年2月） 社会啓発事業 活動成果広報（～令和6年3月） 第3回「日本語教育プログラム」 現地日本語教員の日本における研修 審査会 第3回「日本語教育プログラム」 日本語教育及び日本文化・エンターテインメントの普及並びに進展に貢献・ 功労のあった個人又は団体への顕彰 審査会
11月中旬	第19回「児童教育実践についての研究助成」審査会（～令和6年1月下旬） 第14回「日本語交流プログラム」教師による事前研修（～11月下旬）
11月中旬～下旬	第54回「博報賞」贈呈式・事例共有会開催
11月	調査研究事業 教育界異分野研究交流会② 第3回「日本語教育プログラム」参加者・寄付先・受賞者 合同発表 第3回「日本語教育プログラム」 現地日本語教員の日本における研修 事前研修（～令和6年2月）
12月	第14回「日本語交流プログラム」オンライン交流活動・講座開始（～令和6年4月）
令和6年 1月上旬	第15回「日本語交流プログラム」海外参加校募集開始（～2月中旬）
2月	調査研究事業 教育界異分野研究交流会③ 第3回「日本語教育プログラム」合同表彰式イベント
2月下旬	第19回「児童教育実践についての研究助成」助成対象者発表
2～3月	社会啓発事業 選考結果発表
3月上旬	第19回「児童教育実践についての研究助成」説明会開催
3月中旬	理事会・評議員会の開催（同日）
3月	社会啓発事業 表彰式開催

# 令和5年度収支予算書

## 令和5年度収支予算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

科 目	令和5年度予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2,011,569,000	1,934,519,000	77,050,000
基本財産受取利息	60,000	141,000	△ 81,000
基本財産受取配当金	566,572,000	531,161,000	35,411,000
基本財産受取配当金振替額	1,444,937,000	1,403,217,000	41,720,000
特定資産運用益	15,015,000	14,170,000	845,000
特定資産受取利息	61,000	40,000	21,000
特定資産受取配当金	2,154,000	2,130,000	24,000
特定資産受取配当金振替額	12,800,000	12,000,000	800,000
雑収益	16,000	15,000	1,000
受取利息	16,000	15,000	1,000
経常収益計	2,026,600,000	1,948,704,000	77,896,000
(2) 経常費用			
事業費	1,875,242,000	1,826,307,000	48,935,000
顕彰・助成金・奨学金	616,630,000	553,185,000	63,445,000
博報賞事業副賞金	23,000,000	23,000,000	0
研究助成事業助成金・優秀賞金	40,600,000	40,277,000	323,000
教職育成奨学金事業奨学給付金・人材育成費	419,500,000	375,200,000	44,300,000
日本研究フェロシップ事業研究費	0	48,000,000	△ 48,000,000
日本語交流プログラム事業運営実施費	87,230,000	44,308,000	42,922,000
社会啓発事業副賞金	3,800,000	0	3,800,000
日本語教育プログラム支援金	42,500,000	22,400,000	20,100,000
顕彰・助成・奨学関係費	783,231,000	798,075,000	△ 14,844,000
選考委員会運営費	29,211,000	23,771,000	5,440,000
式典費	59,000,000	65,250,000	△ 6,250,000
招待費	12,500,000	11,720,000	780,000
関連制作費	42,700,000	47,380,000	△ 4,680,000
募集関連費	62,450,000	41,557,000	20,893,000
広告関連費	367,010,000	407,320,000	△ 40,310,000
日本研究フェロシップ事業受入協力費	0	937,000	△ 937,000
事業視察費	7,500,000	5,900,000	1,600,000
事業運営委託費	202,860,000	194,240,000	8,620,000
事業推進・企画費	184,741,000	166,119,000	18,622,000
博報教育フォーラム費	6,500,000	6,500,000	0
日本語交流プログラム事業総合企画費	3,800,000	10,000,000	△ 6,200,000
調査研究事業定点・テーマ型調査研究費	81,881,000	80,614,000	1,267,000
調査研究事業教育課題研究費	12,500,000	16,500,000	△ 4,000,000
WEBネットワーク管理費	80,060,000	52,505,000	27,555,000
事業運営費	290,640,000	308,928,000	△ 18,288,000
役員報酬	10,200,000	10,200,000	0
職員給与	120,141,000	137,603,000	△ 17,462,000
法定福利費	19,084,000	20,558,000	△ 1,474,000
臨時雇用者給与	9,360,000	13,719,000	△ 4,359,000
退職給付負担金	3,866,000	5,288,000	△ 1,422,000
事務所費	67,830,000	67,626,000	204,000
減価償却費	4,216,000	4,216,000	0
広報費	24,575,000	18,894,000	5,681,000
調査・開発費	14,800,000	12,890,000	1,910,000
旅費交通費	9,160,000	8,200,000	960,000
会議費	3,020,000	2,650,000	370,000
郵送・運搬費	3,362,000	5,850,000	△ 2,488,000
消耗備品・資料費	266,000	360,000	△ 94,000
雑費	760,000	874,000	△ 114,000

(単位：円)

科 目	令和5年度予算額	前年度予算額	増 減
<b>管理費</b>	<b>151,358,000</b>	<b>134,046,000</b>	<b>17,312,000</b>
役員報酬	3,450,000	3,550,000	△ 100,000
職員給与	31,764,000	38,407,000	△ 6,643,000
法定福利費	4,535,000	5,344,000	△ 809,000
臨時雇用者給与	7,193,000	240,000	6,953,000
退職給付負担金	1,602,000	1,811,000	△ 209,000
事務所費	11,970,000	11,934,000	36,000
減価償却費	744,000	744,000	0
広報費	6,478,000	2,736,000	3,742,000
調査費	30,180,000	14,980,000	15,200,000
旅費交通費	370,000	610,000	△ 240,000
会議費	7,750,000	7,600,000	150,000
通信費	2,880,000	2,640,000	240,000
備品・資料購入費	3,304,000	3,634,000	△ 330,000
リース料	4,462,000	4,480,000	△ 18,000
文書印刷費	1,410,000	2,010,000	△ 600,000
その他管理費	33,266,000	33,326,000	△ 60,000
<b>経常費用計</b>	<b>2,026,600,000</b>	<b>1,960,353,000</b>	<b>66,247,000</b>
評価損益等調整前当期経常増減額	0	△ 11,649,000	11,649,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	△ 11,649,000	11,649,000
<b>2. 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	△ 11,649,000	11,649,000
一般正味財産期首残高	28,821,708,565	21,347,038,910	7,474,669,655
一般正味財産期末残高	28,821,708,565	21,335,389,910	7,486,318,655
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
<b>基本財産運用益</b>	<b>1,692,800,000</b>	<b>1,587,000,000</b>	<b>105,800,000</b>
基本財産受取配当金	1,692,800,000	1,587,000,000	105,800,000
<b>特定資産運用益</b>	<b>12,800,000</b>	<b>12,000,000</b>	<b>800,000</b>
特定資産受取配当金	12,800,000	12,000,000	800,000
<b>一般正味財産への振替額</b>	<b>△ 1,457,737,000</b>	<b>△ 1,415,217,000</b>	<b>△ 42,520,000</b>
一般正味財産への振替額	△ 1,457,737,000	△ 1,415,217,000	△ 42,520,000
<b>当期指定正味財産増減額</b>	<b>247,863,000</b>	<b>183,783,000</b>	<b>64,080,000</b>
指定正味財産期首残高	88,165,912,359	61,378,049,934	26,787,862,425
指定正味財産期末残高	88,413,775,359	61,561,832,934	26,851,942,425
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>117,235,483,924</b>	<b>82,897,222,844</b>	<b>34,338,261,080</b>

(注) 令和5年度予算の内「一般正味財産期首残高」及び「指定正味財産期首残高」は、本予算編成時における実績予測値である。

## 令和5年度収支予算書内訳表(会計別)

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
<b>基本財産運用益</b>	<b>1,860,227,000</b>	<b>151,342,000</b>	<b>2,011,569,000</b>
基本財産受取利息	51,000	9,000	60,000
基本財産受取配当金	481,587,000	84,985,000	566,572,000
基本財産受取配当金振替額	1,378,589,000	66,348,000	1,444,937,000
<b>特定資産運用益</b>	<b>15,015,000</b>	<b>0</b>	<b>15,015,000</b>
特定資産受取利息	61,000	0	61,000
特定資産受取配当金	2,154,000	0	2,154,000
特定資産受取配当金振替額	12,800,000	0	12,800,000
<b>雑収益</b>	<b>0</b>	<b>16,000</b>	<b>16,000</b>
受取利息	0	16,000	16,000
<b>経常収益計</b>	<b>1,875,242,000</b>	<b>151,358,000</b>	<b>2,026,600,000</b>
<b>(2) 経常費用</b>			
<b>事業費</b>	<b>1,875,242,000</b>		<b>1,875,242,000</b>
<b>顕彰・助成金・奨学金</b>	<b>616,630,000</b>		<b>616,630,000</b>
博報賞事業副賞金	23,000,000		23,000,000
研究助成事業助成金・優秀賞金	40,600,000		40,600,000
教職育成奨学金事業奨学給付金・人材育成費	419,500,000		419,500,000
日本語交流プログラム事業運営実施費	87,230,000		87,230,000
社会啓発事業副賞金	3,800,000		3,800,000
日本語教育プログラム支援金	42,500,000		42,500,000
<b>顕彰・助成・奨学関係費</b>	<b>783,231,000</b>		<b>783,231,000</b>
選考委員会運営費	29,211,000		29,211,000
式典費	59,000,000		59,000,000
招待費	12,500,000		12,500,000
関連制作費	42,700,000		42,700,000
募集関連費	62,450,000		62,450,000
広告関連費	367,010,000		367,010,000
事業視察費	7,500,000		7,500,000
事業運営委託費	202,860,000		202,860,000
<b>事業推進・企画費</b>	<b>184,741,000</b>		<b>184,741,000</b>
博報教育フォーラム費	6,500,000		6,500,000
日本語交流プログラム事業総合企画費	3,800,000		3,800,000
調査研究事業定点・テーマ型調査研究費	81,881,000		81,881,000
調査研究事業教育課題研究費	12,500,000		12,500,000
WEBネットワーク管理費	80,060,000		80,060,000
<b>事業運営費</b>	<b>290,640,000</b>		<b>290,640,000</b>
役員報酬	10,200,000		10,200,000
職員給与	120,141,000		120,141,000
法定福利費	19,084,000		19,084,000
臨時雇用者給与	9,360,000		9,360,000
退職給付負担金	3,866,000		3,866,000
事務所費	67,830,000		67,830,000
減価償却費	4,216,000		4,216,000
広報費	24,575,000		24,575,000
調査・開発費	14,800,000		14,800,000
旅費交通費	9,160,000		9,160,000
会議費	3,020,000		3,020,000
郵送・運搬費	3,362,000		3,362,000
消耗備品・資料費	266,000		266,000
雑費	760,000		760,000

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
<b>管理費</b>		<b>151,358,000</b>	<b>151,358,000</b>
役員報酬		3,450,000	3,450,000
職員給与		31,764,000	31,764,000
法定福利費		4,535,000	4,535,000
臨時雇用者給与		7,193,000	7,193,000
退職給付負担金		1,602,000	1,602,000
事務所費		11,970,000	11,970,000
減価償却費		744,000	744,000
広報費		6,478,000	6,478,000
調査費		30,180,000	30,180,000
旅費交通費		370,000	370,000
会議費		7,750,000	7,750,000
通信費		2,880,000	2,880,000
備品・資料購入費		3,304,000	3,304,000
リース料		4,462,000	4,462,000
文書印刷費		1,410,000	1,410,000
その他管理費		33,266,000	33,266,000
<b>経常費用計</b>	<b>1,875,242,000</b>	<b>151,358,000</b>	<b>2,026,600,000</b>
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	0	0
<b>2. 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高			28,821,708,565
一般正味財産期末残高			28,821,708,565
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
<b>基本財産運用益</b>	<b>1,438,880,000</b>	<b>253,920,000</b>	<b>1,692,800,000</b>
基本財産受取配当金	1,438,880,000	253,920,000	1,692,800,000
<b>特定資産運用益</b>	<b>12,800,000</b>	<b>0</b>	<b>12,800,000</b>
特定資産受取配当金	12,800,000	0	12,800,000
<b>一般正味財産への振替額</b>	<b>△ 1,391,389,000</b>	<b>△ 66,348,000</b>	<b>△ 1,457,737,000</b>
一般正味財産への振替額	△ 1,391,389,000	△ 66,348,000	△ 1,457,737,000
<b>当期指定正味財産増減額</b>	<b>60,291,000</b>	<b>187,572,000</b>	<b>247,863,000</b>
指定正味財産期首残高			88,165,912,359
指定正味財産期末残高			88,413,775,359
<b>III 正味財産期末残高</b>			<b>117,235,483,924</b>

- (注) 1. 令和5年度予算の内「一般正味財産期首残高」及び「指定正味財産期首残高」は、本予算編成時における実績予測値である。
2. 貸借対照表内訳表を作成していないため、一般正味財産期首残高、一般正味財産期末残高、指定正味財産期首残高、指定正味財産期末残高及び正味財産期末残高は合計欄のみを記載している。

資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類  
(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(1) 資金調達の見込みについて

令和5年度(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)中に資金調達予定はありません。

(2) 設備投資の見込みについて

令和5年度(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)中に重要な設備投資(除去又は売却を含む。)の予定はありません。

以 上